

学びを通じた被災地のコミュニティ再生支援事業
大船渡市「デジタル公民館まっさき」 平成 27 年 2 月活動報告
スタッフ・アンケート結果(14 名中 14 名)

あなたの性別を教えてください。

男性	12 名
女性	2 名

あなたのメンバー区分を教えてください。

KK2 メンバー	7 名
Web 会員	6 名
一般	1 名

あなたの年代を教えてください。

20 歳未満	0 名
20～34 歳	2 名
35～49 歳	5 名
50～64 歳	6 名
65 歳～	1 名

KK2 プログラムへの参加回数を教えてください。

初めて	2 名
2 回～4 回	2 名
5 回以上	3 名
10 回以上	7 名

今回の活動への参加動機・目的・趣旨は何ですか。また、それに対する達成度や満足度を教えてください。

とてもよかった	7 名
よかった	6 名
どちらでもない	1 名
あまりよくない	0 名
よくない	0 名

改善点やご意見があればご記入下さい(自由記入)：

- ・ 被災地の復興支援、地域振興
- ・ IP ネットワーク構築(インターネット接続/無線 LAN/パソコン設定)
- ・ 一番の目的はポケ一座公演とごいし民俗誌勉強会の撮影
- ・ PC ネットよろず相談の効果測定、今年度の総括と次年度以降に向けての現地ニーズの確認
- ・ 復興支援として「何か」したい。瓦礫撤去段階から仮設撤去に至りつつある現在、支援のあり方の変化を実感したい。多少知り合いになった方々との絆を深めたい。ある程度は満足します。
- ・ 被災地住民との繋がり、コミュニケーション
- ・ 今後まっさきの活動にどれほど関われるかわからないので、一区切りという感覚で参加させて頂きました。とはいうものの、今回の活動では、地元及び参加者の皆さんのとの人間関係がより深まり、機会があれば、またお会いしたいと強く実感した回でもありました。
- ・ ただ、良くも悪くも私自身の慣れがあり、当初参加させて頂いた時分の感動は薄れてきております。これは、地元の方々の“被災者”被災地”という感覚も薄れつつある中で、ある程度当然かとも思うところがあります。
- ・ 被災地域の復旧復興プロセスで「よそ者」と地域の方で同じ思いを共有し、一緒にコミュニティの再生・発展、持続させてい

く活動をしたと思いました。顔の見える関係構築をとおして活動に参加していきたいと思いました。被災地へ行くのも、岩手県の地を踏むのも初めてであり、地域の方々や地域そのものから多くを学ぶとともに、自分の持てる何かをフル活用して、少しでもお役に立ちたいという思いがありました。自分にできることは微力すぎてもっともっと何かできるようにしたいと感じました。

実際に被災された方の体験を直にお聞きしたことは、大変貴重な機会でした。帰宅したあと、自分が同じ立場だったらと考えると、胸が締め付けられて息苦しく、涙が出てきました。

今後、東京でも大きな自然災害が起こるといわれている中、他人事ではないのが 3.11 だと思います。今度は自分が被災し、全国の人々が支援と一緒に歩んでくださるかもしれません。同じ日本国で生きる者として、自分にできることをできるときに積極的に動いて実施していくことが必要だと実感しました。

今回、貴重な活動に参加でき、よかったです。

達成度：初めての参加でもあり、目標は「まずは知ること」と思って参加したので、第一段階は達成と考えています。現地を少しでも知ることができたことは自分の中では大きかったです。

満足度：大変勉強になり、満足しています。次に参加する機会を得ましたら、今回学んだこと、実感したことを生かして、よりお役に立ちたいです。

- ・ プログラムの企画調整担当として、ふるさととの暮らしに思いを巡らす活動づくり、高齢者ケアの繋がりづくり、地域づくりへ向けて一歩進めるため。

達成度は 60% ぐらい。若者、子供にも参加してほしいかったが、ほとんど高齢者だった。

- ・ 認知症やサルコペニア（加齢に伴う筋肉量の減少）を予防するには、地域の方々が自主的に参加し学ぶ機会を設け、数多く住民に出番を作ることが大切である。本活動はそういった観点で意義深いものだが実際の地域での参加者数には不満が残る。
- ・ アンケートの聞き取り調査。よろず相談と平行して行なうのは少々無理があった。個別に時間をとって、もう少しじっくり聞き取りを行ないたかった。

※聞き取りの中で「この活動に参加したことで、東京にたくさんの友達ができた」というコメントが印象に残った。

・ 以前聞いたコメント

「この活動に参加するようになって、いろいろな集まりに出るようになった」

- ・ 今回の目的は撮影

被災地にボランティアに行く事については是非参加したい意思あり。ただし、IT ボランティアに限定されると IT スキル不足の為、お役に立てない。今回、参加者の御希望に添えない事はばかりで反省反省です

※画像加工ソフトとか専門的なソフトを持ってこられた方がいましたが、これに応えられる人はほほいらないんじゃないかと…

ワード エクセル パワポ の基本くらいなら分かる人も多いが、専門的なソフトは・・・

ただし、今回私、エクセルのご質問にもお答えできませんでした

ボランティアのメンバーが決まった時点でそのメンバーで答えられる内容を事前に現地にお知らせしておいたら

例 AさんはPPT

Bさんは映像編集（ムービーメーカー）

Cさんはエクセル

わざわざふるさとセンターまで足を運んだのにお答えできず無駄足をさせてしまうことも少なくなる気もする ミスマッチをなくせばいいのかな

現地の人はITの質問を介してボランティアと交流ができればいいのかな？現地の人はどこまで求めているのだろう

特に、質問に答えられなくても怒るわけでもなく、まあいいか…みたいな感じなので

- ・ 地元住民のニーズやコミュニティの状況、地域支援活動の運営など。地域活性化につながる情報の収集、及び、被災地への貢献を目的として参加いたしました。

パソコン・ネットよろず相談では、参加された住民のお役に立つことができたと同時に、住民の方々との交流を通じて、ご苦労など、さまざまなお話をうかがうことができました。

また、本活動の参加者の多くがボランティア経験豊富であり、情報交換できたことが良かったと思います。

- ・ (1)参加動機

東北復興について、2013 年度に、毎月東北に通う数値目標を設定し、複数のボランティア団体が行う活動に参加し、ネット検索をしたところ、その一つとして IT ボランティア活動をされていたデジタル公民館まっさき活動を知り爾来、継続的に参加させて頂いております。

(2)目的

復旧・復興、救急・救命、防火・防災、コミュニティの再生・活性化等のテーマについて、2013 年度は調査、2014 年度は実装、2015 年度は実行の三カ年計画で取り組んでおり、2014 年度は、スキル・資格の習得、装備の調達、訓練について取り組んでおります。

①パソコン・ネットよろず相談

・ 来場者の質問を通じて、パソコン・ネットを生活にどのように活用されているのかについてまで洞察すること、質問の背景、スキルを配慮した対応方法を学習すること

②気仙に学ぶ！「気仙ボケー座」

・ 超高齢社会日本の共通問題を、いかに観客と一体となった劇場空間を作り、意思疎通を図るのか、「集団コミュニケーション」の成立要件を学習すること

・ 単なる「創作」の鑑賞ではなく、被介護者と職印との信頼関係づくり、個性や個人の尊厳を尊重しつつ行う典人会施設運営における「集団コミュニケーション」を学習すること

③まっさきに学ぶ！「第三回 『ごいし民俗誌』勉強会」

・ 被災地外組織が、被災地のコミュニティ再生支援の手法の一領域として、「共学」に取り組まれている断片（協議会の方の周到な準備に依存するため）を観察し、支援意義を学習すること

PC ネットよろず相談についていかがでしたか？

とてもよかった	6名
よかった	7名
どちらでもない	1名
あまりよくない	0名
よくない	0名

改善点やご意見があればご記入下さい(自由記入)：

- ・ 来訪者は多かったが概ね対応できた。
- ・ 相談に来られた方々が、よろず相談を楽しみに待っていたようでした
- ・ 参加者の PC レベルが高く、教えることができないのに感謝されるというもどかしさが残った。初めはローマ字も打てなかったという参加者の方が動画や SNS を楽しんでいる姿に向上心の高さを感じた。地元の方が継続して参加したいという雰囲気が出てきているのがよかった
- ・ 常連の方も新しい方も両方来ていただけてよかった。ただ質問内容をスタッフで共有したり、スタッフ・参加者間で声掛けする機会をうまく作れなかったのが反省。
- ・ 効果測定ともいえる帳票は有益な情報を示してくれると期待。地元の人から伝え聞いて来た方がおられ、僅かながら浸透を実感。相談の合間に交わされる被災談義やネット談義も悪くないです。
- ・ 今回担当させてもらった方との、今後の地域を見据えた深い話ができただけは、私にとって今回の変化でした。まさにパソコンの相談では無く、衰退する地域をどうするかという視点で、お話できたことは、この活動の興味深いところかと思えます。
- ・ オープンな空間と雰囲気での活動なので、聞かれて自分では分からないことがあっても、他の方に助けていただいたり、逆にお助けしたりして、みんなで対応し学ぶことができ、現地参加者も含めて一体感が醸し出せた活動だと思いました。
- ・ スキルマップによる学習進捗の把握は重要だが、参加者が目標とする進捗の把握も追加できないだろうか？
- ・ KK2 の web を使った学習を案内し、翌日には視聴した旨の連絡をもらった。もっと早い時期に web 登録をご案内すればよかったと反省した。
- ・ 参加者の目的としては、趣味で作成した造花や旅行の様子を写真や動画を用いて、知人に紹介したいといったものが多く、パソコンやスマートフォンが住民同士のコミュニケーションの一手段として役立つ可能性を感じました。また、震災の悲惨さなど自身の体験を話される方もおり、パソコンに関する相談だけでなく、話を聞いて共感することの重要性を感じました。地元住民のニーズを考慮してテーマを絞れば、いっそう参加しやすくなるのではないかと思います。
- ・ ホワイトボード、模造紙又は PC のプロジェクト投影により、質問受付状況、対応状況を会場内及び遠隔地間共有し、適宜得意分野について知識・経験のある方からアドバイスを得るチーム対応運用をしてみたいと思います。入力課題となりますが、①人的には、受付担当、Q&A 対応者とは別に対応状況をモニタリングし入力する担当者を設置し、②入力デバイスの面では、キーボード入力の他、ホワイトボードや模造紙に板書した画像を撮影し、Facebook に添付したり、Skype にて映像配信する実装可能な現実的な ICT 運用の姿を試してみたいと思います。

「気仙ボケー座」20 周年記念公演についていかがでしたか？

とてもよかった	11名
よかった	3名
どちらでもない	0名
あまりよくない	0名
よくない	0名

改善点やご意見があればご記入下さい(自由記入)：

- ・ 認知症患者に対しての正しい対処法を学べた。
- ・ 各テーマはすごく重い物ですが、お芝居で面白くしているので楽しみながら、対応方法を知る事ができました。観客を引き込んでお芝居をしているので、みなさんが楽しんでいるの判りました
- ・ ボケについての関心が高かったのか、なぜこれほど参加者が多かったのかを検証して次回のプログラムに生かしてほしい
- ・ 盛り上がりよかった。携帯電話着信音が気になった。しっかり呼びかけ注意したい。また、入口誘導受付など役割をしっかりとしておくべきだった。
- ・ このような活動を知らなかったのが驚いた。海外公演には脱帽！ホームや特養には日頃世話になっているので、いづこも変わらぬスタッフの情熱を感じました。
- ・ この企画は過去最高のものだった。集客も概ね 80 名程度で、気仙語は理解不能な部分もあったが、皆さん喜んで笑っておられたのでよかったと思う。
- ・ 高齢者とされる皆さんの多い地区で、切実な問題であるボケ・認知症について、笑いを交えながら展開される公演は、演技の巧みさを越える感動がありました。

そして、参加されている皆さんの真剣かつ楽しんだ雰囲気は、とても印象深く感じました。

- ・ 入り口に「こちらからお入りください」とか「会場入り口」などの表示をし、受付に「受付」表示をしたほうがよかったです。マナーのことになりますが、関係者の私語が大きな声過ぎて、周りのご迷惑になったのではないかとハラハラしました。雑談は廊下でするよう、周知徹底したかったです。また、ケータイ電話はマナーモードにするよう徹底したほうがよいと思いました。何人が着信音をしばらく鳴らせたままにした方がいて、参加者のご迷惑になったのではないのでしょうか。次回に生かせればと思います。
 - ・ こちらが用意したのではなく、ポケー座さんからの自主提案による企画なので、その点良かったのと、学びの機会提供の内容としても、コミュニティづくりに資する意味でも大変良かった
 - ・ 認知症について自分自身の認識を改めた。気仙訃りで聴き辛い点を除けば認知症啓蒙用プログラムとしてとても良い。
 - ・ 娯楽としての要素があり、繊細な内容でありながら、会場の笑いが絶えなかったことが印象的でした。また、八十歳代前後の方々が会場で数十年ぶりに再会し、抱き合って感動するなどしており、顔を合わせる場としての効果もあるのではないかと思います。
- 公演の内容は私自身にとって新鮮であり、介護や福祉について考える良い機会となりました。
- ・ 演じる側と鑑賞側の距離を縮め、一体化し、会場全体が劇場化舞台化日常化へ遷移する、「集団コミュニケーション」の様子を観察でき、「典人会」での運用を類推でき非常に有意義であった。
- 共通のテーマ設定、衣服、用具、言語、イントロネーション、間、表情、リアクションの全てが巧みな企てられていた。単なるテクニックやそのマニュアルだけでは、特定施設や特定地域のコミュニティは築けないことも学習した。

第3回「ごいし民俗誌」勉強会についていかがでしたか？

とてもよかった	8名
よかった	1名
どちらでもない	0名
あまりよくない	0名
よくない	0名
不参加・未回答	5名

改善点やご意見があればご記入下さい(自由記入)：

- ・ 地域に根ざした研究結果を知ることができた。また、今後地域の人達で継続していく決定がなされたのが何よりも良かった。
- ・ 知識のない土地の話でも興味を持って楽しく聞かせてもらった。
地元の人が主体となって活動を起こそうとする姿にこのプログラムの意義を感じた
- ・ 今までの勉強会の総まとめ的で、大変為になり面白い話だった。現地の負担にならないような、体制づくりを考えたい。
- ・ このようなフィールドワークは個人的に好きなので大変興味深かった。残念な被災だが、その復興過程で習俗が変質されて伝承されるのも自然現象であり、価値ある経過観察。学問的な勉強会ではないので、当事者（の末裔）が参加する価値をどこに見出すのか、少々検討が必要でしょう。
- ・ 民俗学的なアプローチについて学べたのが良かったです。今後私自身の活動にも、何か取り入れられたらと感じております。
- ・ 講師の話すスピードについて、自分はちょうどよいと感じました。テンポよく、歯切れよく、聞きやすかったです。投影した資料や「ごいし民俗誌」は、手持ち資料として大きめ（A3版）サイズで用意し、出席者全員に行き渡る部数を準備しておいたほうがよいです。
- ・ ふるさとの景色、暮らしについて、アイデンティティについて、外から見るとお宝がたくさんあるのに、地域の方はなかなか認識しづらいわけですが、講師がそこを分かりやすく話していたのが素晴らしいと思った。
- ・ 現地の人が学んでのもので東京から行った人が学んでもあまり・・・という感じだが運営のお手伝いと考えればそれはあり
- ・ 住民のアイデンティティに関わる内容であり、地名や伝統行事、昔の写真など、共通の話題で話が盛り上がっていたことが印象的で、本勉強会の取り組みや参加者をうまく広げることができれば、住民同士でのつながりを保つうえで役立つのではないかと思います。
- ・ 地域の出来事が記号化された地名、地域の経済の推移が記号化された地形、地域の宗教・文化・生活が記号化された家屋について認識し、それらの記号を読み解く作業は、「記憶を記録する」作業が地域を再生し、活性化し、それを維持する上で極めて有効であることを学習した。これらの知見は全国共通のこの問題に取り組む要件であると認識した。

また参加したいと思いますか？

ぜひ参加したい	8名
参加したい	4名
どちらとも言えない	2名
参加したくない	0名
まったく参加したくない	0名

備考・自由記入

- ・ 平成27年度も是非継続いただきたい

- ・ ボランティア精神というのは未だ持っていないが、単純に楽しいというだけでまた参加したいという気になった
- ・ 配布資料・アンケート用紙・活動チラシが多くなりすぎ、整理が行き届かなかった。慣れが生じ、初参加者への配慮が不十分になりつつあると感じた。
- ・ 研究員の今石さんもそうであったように、地域との関わり合いには「縁」が結構重要な要素だと思います。この「縁」を大事にしたいと思います。人間が終わるまで
- ・ 事務局メンバーのおっしゃられるように、これまでの企画をそのまま続けるのではなく、もっと地域の要望に即した活動になると、よりよい企画になると感じております。逆に言えば、そのような要望が出てこない、とりまとめられないとするなら、潮時という感じは共感するところです。
- ・ 私自身は、今後他の活動が忙しくなる中ですので、以上の変化も参考にさせて頂きつつ、参加できたら参加させて頂きたいと考えております。
- ・ 現地の方とたくさん語り合ったり、お互いに知らなかったことを伝えあったりすることで、相互理解を深めたり、気持ち・思いの共有や、本当に必要な物事を理解できるようになると思いました。また、その後のクチコミによる情報拡散も期待でき、本活動があることを多くの人へ伝え広められ、次の賛同者・協力者を生み出せるかもしれません。
- ・ 役に立てるものがあれば
- ・ 参加は習得知見は限定的と思いますが、一方で、参加者の固定化を問題視するべきか否かの議論が必要だと思います。年度行事とする場合は、ゆるやかな年度参加を参加要件とすれば、現在の運用実態が、事務局、固定的メンバー、新規参加者の構成比となっているため許容範囲ではないでしょうか。次回以降もぜひとも参加させていただきたいと思っておりますが、そろそろ参加しづらく、辞退しなければならぬように感じております。)

ご意見・ご要望・苦言など、何でも結構ですのでご記入下さい。

- ・ 多少なりともお手伝いできることがあれば何でも言ってください。事務局の方々の負担が大変大きいように思えます。逆に我々参加者はスタッフと言われても言われるままに動くだけでかなりラクをさせていただいています。
- ・ KK2 事業者の立場から思う事は防災キャンプなどの霞が関で行うプログラムとまっさきとの融合が課題かと感じました。現地に行かなければ出来ないボランティアがある半面デジタル公民館ならではの役割はないのか再認識することができました。
- ・ 寄せ集めのみそ者集団がそれなりにチームワークで行動できているのには、見えない所で何か大きな背景なり理由がありそうです。企画、メンバーなど場面を変えても「うまく回る」仕組みを本事業で確立できるといいですね。
- ・ デジタル公民館活動も、NPO事業サポートセンターから引き継いでの活動で、住民への認知度が向上していることが今回わかった。
若手(30代女性)のパソコンよろず相談を対応し、次回はいつかと次を楽しみにしておられる方もいるので、継続して行く必要がある。段々と若手も訪問できるようになってくるのではないかと思います。若手が参加できるようになれば、それから色々な若手にも声をかけて輪が広がると思う。
- ・ 事務局のみなさま、今回もありがとうございました！
- ・ 1) 2/12 事前ミーティングにて、以下の情報の周知・確認のために資料を紙で配布したほうがよかったと思います。
 - ・ 2/14 の集合場所・時間[一ノ関駅のどこどこ改札口に 9 : 35 など]
 - ・ 持ち物リスト
- ・ 2) 2/14 にボケー座の会場で配布した翌日イベントのチラシに、開催時間の誤りがありました。日時・場所に関わる情報については、コピーする前に複数人でダブルチェックしたり、間違った記載の古いバージョン文書を残さないようにきちんと廃棄したりといった管理をしっかりしていく必要があると思いました。
- ・ スタッフの振り返り mtg. は現地でもちゃんと行いアンケートもメールではなく現地で行うべきである。
- ・ 本年度の活動では、参加者がなんらかの分野での専門家であったこともあり、問題意識の高い議論ができた回もあり、有意義な活動となった。
参加者有志で継続して集まるためのグループを東京に編成しようという動きに結びついたのは、本活動の成果である。
 - ・ 緊急時のフェーズではないので、地元の美味しいものを食べる時間などを設定してほしい。"
- ・ 2 日目の昼食は倒れそうなくらい少なかった。その分夜に費用を回しているのが分かるが、一般参加で事情を知らない人だったらびっくり！！でも被災地ボランティアと考えれば、食べ物もらえるだけで好し、と考えるべきか
- ・ (1)ここ数回の「学びを通じた被災地のコミュニティ再生支援事業」へ参加される新規の方々の行動を拝見しておりますと、IT ボランティアを主目的として応募され参加された方々と比較すると、現地での言動が、協調的且つ主体的・積極的であり、かつて散見された批判的受動的・目的外行動がなく、組織活動が成熟している印象を受けております。これは募集要領が明確化・厳格化したこと、テーマを PC 操作等 IT のミクロなテーマから、コミュニティ再生へ舵を切った影響によるものと推察しております。被災地側も PC 操作を無償で習得できる機会として来場される層と超高齢社会に密接に関係する課題、地域固有の民俗を学習する機会として来場される層とに分別されてきているのではないのでしょうか。実際は、被災当初からのボランティア団体との「お付き合い」で来場されていた方々が動機の如何に係わらず、本事業が提供するテーマに主体的に興味・関心を持って取り組まれているように思います。被災地の方々と地域外団体が信頼関係を築くことには時間を要することと、本活動の発展的収束の時期はさらに遠く、その理由もまた難しいものと思っております。

「気仙ボケー座」20周年記念公演 2月14日(土) 13:30~15:00

現地参加者アンケート結果 回答者 37名 (参加者数 : 現地参加者 68名)

あなたの性別を教えてください。

男性	8名
女性	29名

あなたの年代を教えてください。

34歳未満	0名
35~49歳	1名
50~64歳	2名
65歳以上	34名

お住まいはどちらですか？

大船渡市末崎町内	34名
大船渡市内(末崎町外)	2名
住田町	1名

おもしろかった？ 内容はいかがでしたか？

とてもよかった	22名
よかった	5名
どちらでもない	0名
あまりよくない	0名
よくない	0名

未回答 10名

今回のプログラムを何で知りましたか？ (重複回答あり)

館報まっさき	22名
友人・知人経由	5名
チラシ	0名
インターネット	0名
その他	0名

未回答 10名

ご意見・ご要望など何でも結構ですのご記入下さい。(自由記入)

- ・ 認知症予防にアロマが効果的とテレビで話題になりましたね。
- ・ 認知症の姑の介護の最中です。とても参考になりました。楽しかったです。
- ・ 最後の「若年性アルツハイマー」がショックでした。
- ・ とても勉強になりました。
- ・ 大変勉強になりました。
- ・ 演じる方が上手で感心しました。私の明日を見えています。一日々々を大切に生きたいです。
- ・ またやって下さい。
- ・ 楽しく悲しく、明日は我がよくなる様に歳を重ねたいものです。アルツハイマーショックで言葉も無いです。
- ・ ひさしぶりにボケー座を見ました。
- ・ とても有意義な時間でした。前期高齢者として、ボケない様頑張ります。
- ・ とても良かったです。お元気でガンバって下さい。
- ・ アルツハイマーになったら大変と思いました。

学びを通じた被災地のコミュニティ再生支援事業
大船渡市「デジタル公民館まっさき」 平成 27 年 2 月活動報告
PC ネットよろず相談 現地参加者アンケート結果 (回答 7 名)

2月14日(土) 15:00~17:00・18:30~20:00	2月15日(日) 13:00~16:00
夕方 10 名 / 夜 7 名	8 名

延べ 25 名

あなたの性別を教えてください。

男性	2 名
女性	5 名

あなたの年代を教えてください。

20 歳未満	0 名
20~35 歳	0 名
35~49 歳	1 名
50~64 歳	1 名
65 歳以上	5 名

末崎活動(PC、竹とんぼ、寄席、音楽会、映画会等)への参加回数を教えてください。

初めて	1 名
2~4 回	2 名
5 回以上	2 名
10 回以上	2 名

お住まいはどちらですか？

末崎町内	7 名
それ以外	0 名

本日の参加プログラム全般についていかがでしたか？

とてもよかった	6 名
よかった	1 名
どちらでもない	0 名
あまりよくない	0 名
よくない	0 名

また参加したいと思いますか？

ぜひ参加したい	5 名
参加したい	2 名
どちらとも言えない	0 名
参加したくない	0 名
まったく参加したくない	0 名

学びを通じた被災地のコミュニティ再生支援事業

大船渡市「デジタル公民館まっさき」 平成 27 年 2 月活動報告

第 3 回「ごいし民俗誌」勉強会 現地参加者アンケート結果 (参加者 13 名中回答 6 名)

あなたの性別を教えてください。

男性	4 名
女性	2 名

あなたの年代を教えてください。

20 歳未満	0 名
20～35 歳	0 名
35～49 歳	1 名
50～64 歳	1 名
65 歳以上	4 名

末崎活動(PC、竹とんぼ、寄席、音楽会、映画会等)への参加回数を教えてください。

初めて	1 名
2～4 回	2 名
5 回以上	2 名
10 回以上	1 名

お住まいはどちらですか？

末崎町内	6 名
それ以外	0 名

本日の参加プログラム全般についていかがでしたか？

とてもよかった	5 名
よかった	1 名
どちらでもない	0 名
あまりよくない	0 名
よくない	0 名

また参加したいと思いますか？

ぜひ参加したい	3 名
参加したい	3 名
どちらとも言えない	0 名
参加したくない	0 名
まったく参加したくない	0 名